## 委員会報告書

<u> </u>	女 只 云 邗 □ 目
委員会名	平成 26 年度 第 4 回 生産技術委員会 平成 26 年 11 月 7 日 (金) 14 - 20 - 19 - 20
開催日時	平成 26 年 11 月 7 日 (金) 14:30~18:30
開催場所	九州大学 伊都キャンパス ウエスト2号館 5階 543号室
出席者 (敬称略)	│大下委員長、松原副委員長、内山、荒木、大西、奥澤(倉又代理とし │て)、林田、早津、菅井、中居、田中(運営幹事)
	以上 27 名中 11 名
議事	1. 委員交代 ・ 三井石油開発 大西豪氏(三上委員と交代)
	二月日本開発・八日家氏(二工安長と大下)
	2. 幹事会報告
	・ 今後の生産技術委員会では、幹事会報告の後に理事会報告を行う
	こととする。
	- 本年8月末に80周年記念出版物として石油鉱業便覧(2013)が刊行
	され、主要記念事業は終了した。
	これの、工女心心事不はだ」した。
	3. 理事会報告
	5. 全事会報告   · 石鉱連からの人件費・事務所管理費等の費用負担率見直し要請に
	対する幹事会での検討結果が承認され、「主査級職員の給与等の
	負担率を 50%とすること、一般職員の超過勤務手当を全額負担す
	ること、の2点を石鉱連へ回答するのが妥当」とされた。
	- 上記の対応により、年間約90万円の負担増となるが、会誌印刷費
	- 工記の対応により、平面約 90 カロの負担項となるが、云脇印刷負の削減と繰越金により協会運営に支障は生じない見込み。
	・ 記念出版物のデジタル化について、その時期、価格等について、 
	今後、幹事会で検討していく。
	   4. シンポジウム原稿の査読状況について
	・ 全 11 件中、編集委員会受理 7 件、査読中 2 件、未提出 2 件。
	・ 至 11 円中、禰耒安貞云文垤 7 円、宜読中 2 円、不提山 2 円。   ・ 査読中 2 件のうち 1 件については、図表やレイアウトの調整中で
	入稿間近。残る1件については、運営幹事より催促を出す。 ま想出2件のまた1件については原稿作成内である。
	・ 未提出 2 件のうち 1 件については原稿作成中であることを確認済
	み。残る1件については委員長から催促を出す。
	・ 上記の対応で、現在査読中および未提出の原稿についても、11 月
	中に入稿し、12月発刊予定の次号の掲載に間に合わせる。
	   5 東は 97 年度素系建定会され、おぎ点 / ニュラについて
	5. 平成27年度春季講演会シンポジウムテーマについて
	・シンポジウムテーマ候補の3つのキーワードについて、各社・各
	大学が講演可能な題材の数を整理すると以下の通りとなった(各
	テーマで重複する題材あり)。
	✓ レザバー・マネージメント(5 団体から 10 件)
	✓ HSE・環境技術 (5 団体から 6 件)
	✓ 海洋開発 (10 団体から 10 件、うち 2 件は海洋開発案件に該
	当するか要確認)
	- シンポジウムでの講演数は例年 9~10 件で、1 団体から 1~2 件の
	講演が適切であるため、講演者のバランスのとれた「海洋開発」
	を最有カテーマとして選定する。
	・ 各社・各大学に、「海洋開発」のテーマで講演可能な題材の抽出を

依頼する。

- 6. 平成27年度見学会について
- ・ 見学小委員会にて見学先の絞り込みを行い、以下の 3 つのコース を案出した。
  - ✓ 横浜・淵野辺プラン (造船所 or JAMSTEC → JAXA → SLB)
  - ✓ 千葉プラン (水溶性天然ガス施設 → TRC → J-Power 風力発 電所)
  - ✓ 海ほたるプラン (水溶性天然ガス施設 → 海ほたる → 造船 所 or JAMSTEC)
- ・ 年内には、各施設の見学可能人数や受入可能時間等を確認し、各 コースの実現可能性を第6回委員会にて報告予定。
- 7. 次回以降の委員会開催場所について
- 第5回: 平成26年12月5日(金)15:30~ 東北大学
- · 第6回: 平成27年1月15日(木)15:30~ 三菱商事石油開発
- 8. 話題提供
- ・ 九州大学学生による研究紹介
  - ✓ 減圧法を用いたメタンハイドレート生産における圧密挙動の 影響(松田大樹、修士2年、佐々木研究室)
  - ✓ 九重火山の広域 3 次元熱構造モデリング (伊藤陽平、修士 2 年、藤光研究室)
- 生産技術委員による活動紹介
  - √ 我が国の石油・天然ガス開発業界の活動紹介(大下委員長、 ほか生産技術委員より9件)

以上